

執筆者紹介

生井真理子（大阪樟蔭女子大学・

大谷女子短期大学非常勤講師）

山田和人（本学教授）

アンパロ・ウマリ

（本学大学院博士課程後期課程）

藤井俊博（本学助教授）

白瀬浩司（本学文学部嘱託講師）

編集後記

この一年「毒」という語がニュースによく顔を出した。実におぞましいことで、犠牲になった人にはまことに気の毒なことであった。暗い世紀末である。

しかし、いくつか明るい未来の話も聞こえてくる。その一つは、音声入力で文字出力をする機器の実用化である。日本語やスペイン語のような音素数が少なく、音節構造も単純な言語では、機械の音声認識力が高いので、開発が進めやすいわけである。実用化が多くの福音をもたらすであろう。

昨年六月十一日、古代文学を担当されていた名誉教授の土橋寛先生が逝去された。学術会議会員も務められた先生の学術・教育面の多くのご功績を偲びつつ、この欄を借りて、先生のご冥福をお祈り申しあげる。

本号は記念すべき五十号であるが、五人の会員の研究成果で飾ることが出来た。本会の研究活動を喜ぶとともに、他の会員各位からの積極的な投稿をお願いするものである。（玉村文郎）

同志社国文学 第五十号

一九九九年三月一五日 印刷

一九九九年三月二〇日 発行

編集 加美 宏
玉村 文郎

発行 同志社大学国文学会

(代表) 向井 芳樹

京都市上京区今出川通烏丸東入
振替 〇一〇九〇—一一二七三七

印刷所 共同印刷工業株式会社
京都市右京区西院久田町